資料１これまでの小・中学校配置計画

〇これまでの計画の改定経過

【平成１７年１１月】
　急激な少子化の状況を踏まえ、より良い教育環境並びに小中学校の適正配置について、白鷹町学校教育検討委員会を設置し検討。
【平成１８年】
　この検討報告を受け、白鷹町における小・中学校の配置計画を策定。
　小学校「１学年２学級以上」　中学校「１学年３学級以上」
　白鷹町における学校数「小学校２、中学校１」

【平成２３年３月】
　制度の変更や出生数が見込みを上回っていることなどの状況変化があり、
　小・中学校の配置計画について見直しを行った。

〇現行の小・中学校の配置計画（H23.3）

１　白鷹町における適正規模について

（１）人格形成及び学力の充実を基本とした白鷹町における「教育の質」の保障
　①集団の中で個性を生かし、豊かな心を育てる教育を充実。
　②指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。

（２）教育環境の整備
　①子どもも教師も切磋琢磨し、より良い人間関係を構築する。
　②各教科の中で様々な考えや意見の練り合いができる授業、体育・音楽等のチーム及び集団での授業の環境整備を図る。
　③地域社会に根付いた学校が持つ地域的意義等を十分に考慮し、地域の理解と協力を得ながら教育環境の整備を行う。

２　白鷹町立小･中学校の配置計画

（１）平成１６年度以降、平成２２年度見込みまでの出生数は１００人台で推移。

（２）平成２８年度の小学校１年生は、町内全体で１０１人。
　「地域の学校」としての熱い思いや地域の主たる公的施設としての役割、少人数指導、通学距離などを考慮。
　当面は統合せず、今後の出生数の状況を見据え改めて検討する。
　なお、複式学級のある学校については、地域の方々との協議により再編を進めていく。

（３）平成２８年度の中学校１年生は、町内全体で１３１人（西中学校：４４人、東中学校：８７人）。平成３４年度の中学校１年生は、町内全体で１０１人（西中学校：４６人、東中学校：５５人）。
　これらの状況を受けとめ、教育的効果の面から町民及び地域の十分な理解と合意を図るとともに、教育環境の整備を行い、早期に統合を進めるものとする。